



山形県感染症発生動向調査

平成30年第30週(7月23日～7月29日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
 2018年8月1日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※◎:警報レベル

○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第29週	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	第29週	第30週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	273 0.06																16171
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	2388 0.76	7 0.23	5 0.17	▽	1 0.08	1 0.08					6 1.00	3 0.50	▽		1 0.13	△	365
咽頭結膜熱	1727 0.55	15 0.50	18 0.60	△	3 0.23	3 0.23		3 1.00		▽	9 ◎1.50	14 ◎2.33	△		1 0.13	△	627
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4950 1.57	59 1.97	41 1.37	▼	25 1.92	15 1.15	▼	1 0.33	2 0.67	▲	23 3.83	17 2.83	▽	10 1.25	7 0.88	▼	3300
感染性胃腸炎	12090 3.84	120 4.00	93 3.10	▼	43 3.31	49 3.77	△	4 1.33	9 3.00	△	24 4.00	18 3.00	▼	49 6.13	17 2.13	▽	5099
水痘	896 0.28	7 0.23	13 0.43	△	2 0.15	2 0.15		1 0.33	6 2.00	△	2 0.33		▼	2 0.25	5 0.63	△	425
手足口病	5898 1.87	127 4.23	95 3.17	▽	108 ◎8.31	68 ◎5.23	▽	10 ◎3.33	19 ◎6.33	△	8 1.33	6 1.00	▽	1 0.13	2 0.25	△	825
伝染性紅斑	810 0.26	9 0.30	4 0.13	▼	1 0.08		▽				8 ◎1.33	3 0.50	▼		1 0.13	△	296
突発性発しん	1483 0.47	18 0.60	26 0.87	△	3 0.23	6 0.46	△	1 0.33	3 1.00	△	9 1.50	9 1.50		5 0.63	8 1.00	△	495
ヘルパンギーナ	7833 2.49	250 ◎8.33	252 ◎8.40	▲	154 ◎11.85	148 ◎11.38	▽	3 1.00	6 2.00	▲	85 ◎14.17	88 ◎14.67	△	8 1.00	10 1.25	▲	962
流行性耳下腺炎	535 0.17	2 0.07	3 0.10	△	1 0.08	1 0.08						2 0.33	△	1 0.13		▽	89
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	9 0.01																
流行性角結膜炎	560 0.81	1 0.13	4 0.50	△		1 0.25	△		1 1.00	△				1 0.50	2 1.00	△	67
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5 0.01																20
クラミジア肺炎	1 0.00																
マイコプラズマ肺炎	80 0.17	4 0.40		▽	4 1.00		▽										75
細菌性髄膜炎	7 0.01	1 0.10		▽	1 0.25		▽										8
無菌性髄膜炎	29 0.06	1 0.10		▽										1 0.33		▽	5

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
腸管出血性大腸菌感染症	無症状病原体保有者	1				型別:O111 VT1VT2。
梅毒	無症状病原体保有者			1		
百日咳	患者	1				※第29週追加報告分。ワクチン接種歴:4回。

<通信欄>

※トピックスで、ヘルパンギーナ、手足口病について掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ															
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1	2	2												5
咽頭結膜熱		3	4	2	3	3		1	2						18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	4	5	8	5	7	2	2	4	3			41
感染性胃腸炎		10	24	11	5	12	5	6	2	2	3	11		2	93
水痘		1	1		1	1	2	3	3	1					13
手足口病	1	11	21	17	19	13	7	3	2			1			95
伝染性紅斑				1	1					2					4
突発性発しん		6	12	6	2										26
ヘルパンギーナ	2	21	76	47	33	23	22	14	4	4	1	5			252
流行性耳下腺炎						1	2								3

<平成30年6月 月報>

2018年7月25日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～6月	
	5月	6月	5月	6月	5月	6月	5月	6月	5月	6月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	24	15	13	9	6	2	3	2	2	2	113
	定点当たり	2.40	1.50	3.25	2.25	6.00	2.00	1.50	1.00	0.67	0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	7	2	1	1	1	2	4	1	1	52
	定点当たり	0.60	0.70	0.50	0.25	1.00	1.00	1.00	2.00	0.33	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	3	5	1	2			1	1	1	2	19
	定点当たり	0.30	0.50	0.25	0.50			0.50	0.50	0.33	0.67	
淋菌感染症	報告数	5	3	2	2			1		2	1	17
	定点当たり	0.50	0.30	0.50	0.50			0.50		0.67	0.33	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	7	11	2	1		1	1	3	4	6	47
	定点当たり	0.70	1.10	0.50	0.25		1.00	0.50	1.50	1.33	2.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	13	22	5	12	2		1		5	10	107
	定点当たり	1.30	2.20	1.25	3.00	2.00		0.50		1.67	3.33	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当たり											

<トピックス>

ヘルパンギーナ情報

県平均の定点当たり報告数は、前週に引き続き警報レベルとなっています。地区別では、村山地区と置賜地区が警報レベルとなっています。

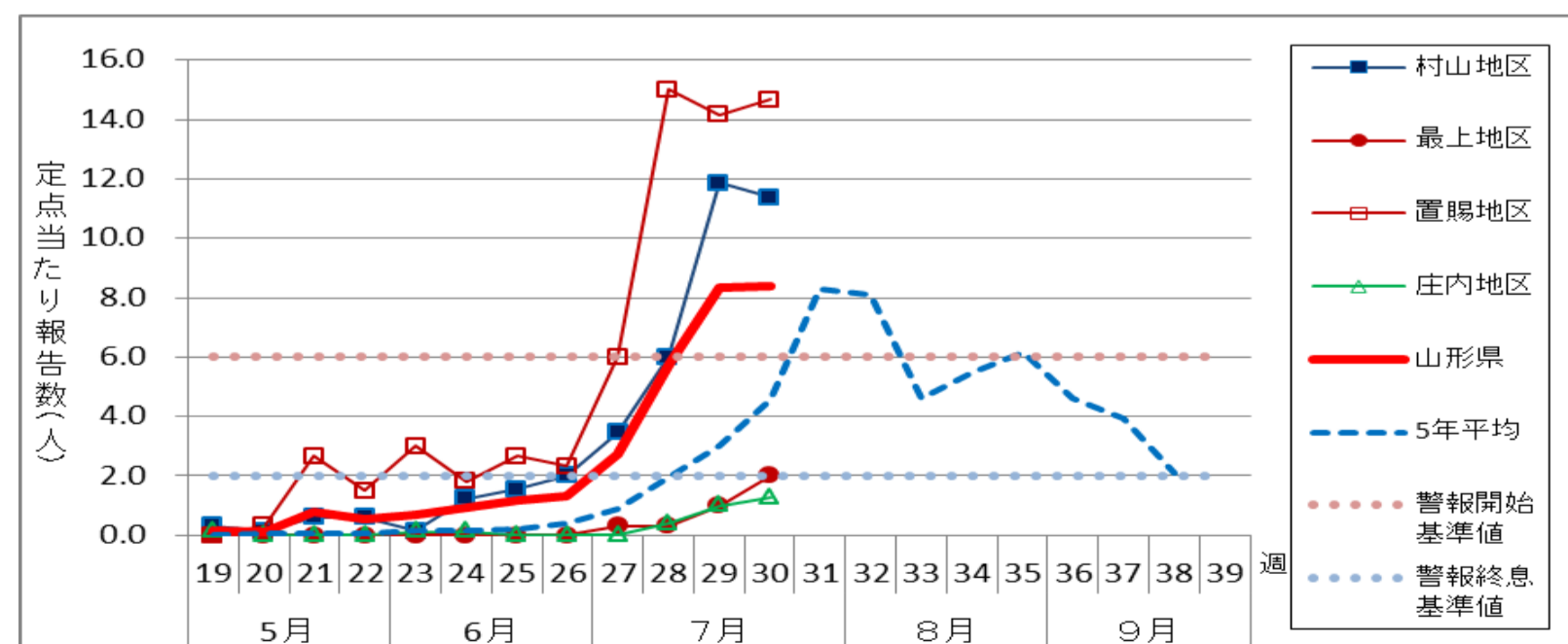
- ・警報開始基準値:6人 警報終息基準値:2人
- ・第30週 定点当たり報告数(山形県:8.40人)
村山:11.38人 最上:2.00人 置賜:14.67人 庄内:1.25人

<ヘルパンギーナとは>

エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA群など)による感染症で、幼児を中心に夏に流行します。

突然の高熱で発症し、続いてのどの痛み、のどの奥に水疱が現れます。のどの奥の水疱は、やがて破れて痛みを伴います。

<定点当たり報告数の推移(山形県)>



手足口病情報

村山地区と最上地区の定点当たり報告数が、警報レベルとなっています。

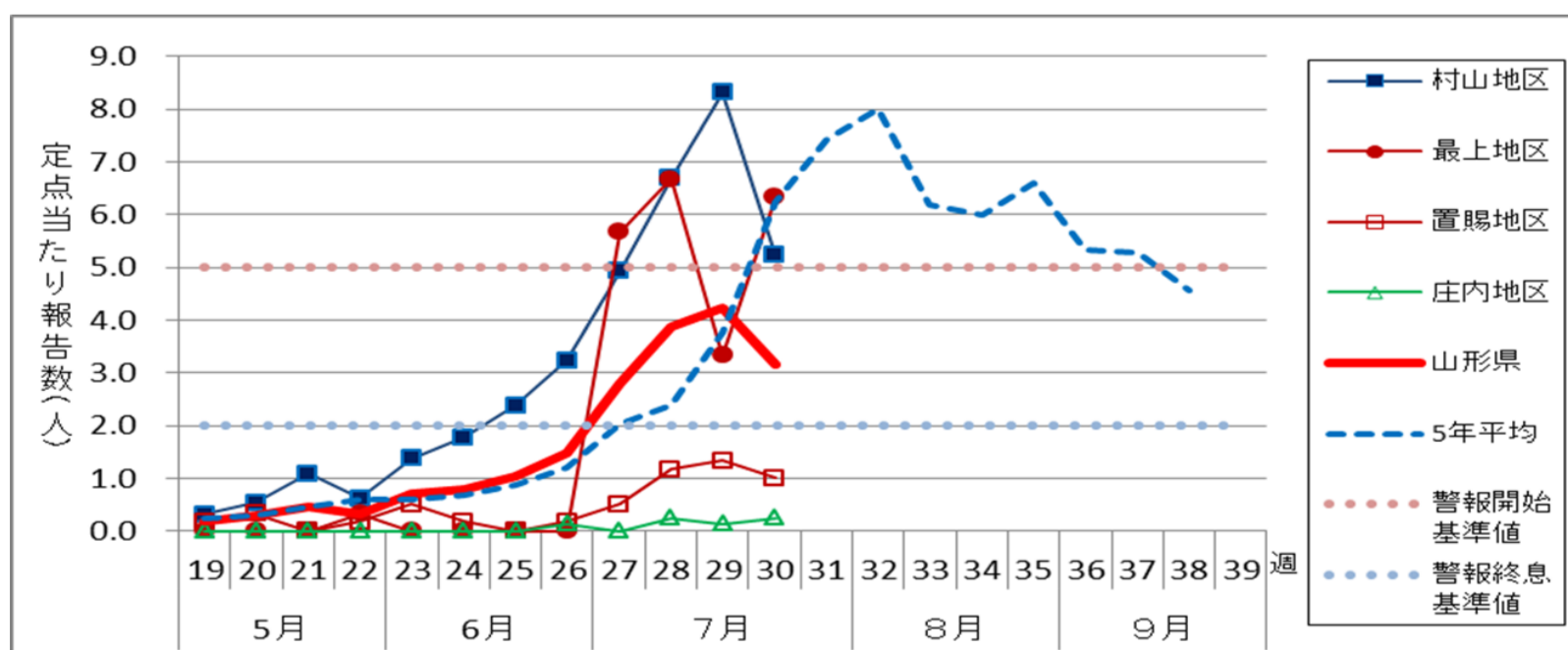
- ・警報開始基準値:5人 警報終息基準値:2人
- ・第30週 定点当たり報告数(山形県:3.17人)
村山:5.23人 最上:6.33人 置賜:1.00人 庄内:0.25人

<手足口病とは>

エンテロウイルス(コクサッキーウイルスA16、エンテロウイルスA71など)による感染症で、幼児を中心に夏に流行します。

主に口の中や、手のひら、足のうらなどに水疱性の発疹がみられ、熱が出ることもありますが、高熱にはならないことがほとんどです。

<定点当たり報告数の推移(山形県)>



ヘルパンギーナ、手足口病の治療は、対症療法が中心となります。口腔内の痛みにより、水分がとりにくい場合もありますので、脱水に注意しましょう。
 予防法としては、患者との濃厚な接触を避けることと、うがい、手洗いを徹底することが大切です。回復後も、便中には2～4週間にわたり、ウイルスが排泄されますので、おむつ交換や、トイレの後は特に入念に手を洗いましょう。

しっかり手洗い!



おむつ替えの後は入念に!